

## 採卵鶏における効率的なリサイクル飼料利用方法の検討

○長野和敏<sup>1</sup>・稲生哲<sup>1</sup>・宮田透<sup>1</sup>・佐々木俊雄<sup>1</sup>・太田勝美<sup>1</sup>・松澤秀明<sup>1</sup>・阿部啓之<sup>2</sup>・河村正<sup>3</sup>・筒井真理子<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>家改セ岡崎牧場・<sup>2</sup>畜草研・<sup>3</sup>家改セ)

[目的] 限られた資源を有効活用して食料自給率の向上を図るため、また、近年の飼料価格高騰化対策の一環として、家畜に対するリサイクル飼料の利用促進が望まれている。我々は、市販のリサイクル飼料の給与が採卵鶏の生産能力や生産物に及ぼす影響を調査し、採卵鶏におけるリサイクル飼料の効率的な利用方法を検討した。[方法] ①短期給与試験（産卵ピーク期からの給与）：211日齢の赤玉交雑鶏（RIR×WR）を各90羽ずつ4区とし、それぞれ、市販の成鶏用飼料をリサイクル飼料で0, 10, 20 または 30%置換した飼料を112日間給与した。②長期給与試験（大すう期からの給与）：70日齢の赤玉交雑鶏及び白玉鶏（WL）を各72羽ずつ4区とし、それぞれ、市販の大すう用飼料（110日齢まで）もしくは成鶏用飼料（110日齢以降）をリサイクル飼料で0, 10, 15 または 20%置換した飼料を356日間給与した。①及び②の試験

では飼料摂取量、体重、産卵率、卵重及び卵質の調査を行なった。②の試験では他に生存率及び排泄物中水分含有率の測定を実施した。③生産物調査：189日齢の赤玉交雑鶏に成鶏用飼料をリサイクル飼料で30%置換した飼料を与えて、その23～24日目の鶏卵（卵黄）と56日目の鶏肉（むね及びもも）の脂肪酸組成を調査した。[結果] ①短期給与試験：20%及び30%区で産卵率の有意な低下が認められた。②長期給与試験：20%区における排泄物中の水分含有率が増加した。それ以外の調査項目に差は認められなかった。③生産物調査：脂肪酸組成の変動は、鶏肉より鶏卵において顕著であった。以上のことから、大すう期からリサイクル飼料の給与を開始すれば、産卵ピーク時に開始するより高率な配合が可能であること、また、リサイクル飼料を30%配合すると鶏卵成分に影響を与える可能性があることが示唆された。

採卵鶏における効率的なリサイクル飼料利用方法の検討

○長野和敏<sup>1</sup>・稲生哲<sup>1</sup>・宮田透<sup>1</sup>・佐々木俊雄<sup>1</sup>・太田勝美<sup>1</sup>・松澤秀明<sup>1</sup>・阿部啓之<sup>2</sup>・河村正<sup>3</sup>・筒井真理子<sup>1</sup>（<sup>1</sup>家改セ岡崎牧場・<sup>2</sup>畜草研・<sup>3</sup>家改セ）

演題希望分類：飼料・栄養

（遺伝・育種、繁殖・生理、疾病、飼料・栄養、経営・管理・畜産物利用、より選択する。）

優秀発表賞の対象者：

（講演者が発表時点で満30歳以下の場合は、◎印を付ける。）